資料―３

第 20 回　揖保川流域委員会説明資料

（参考資料編）

■議題

・これまでの委員会の流れと今後の予定について
・さらにわかりやすい広報、公表の仕方について
・住民意見を河川整備計画に反映させるための具体的な取り組みについて

■議題

１．本日の委員会の主旨について……1
２．これまでの委員会の流れと、今後の予定について……1
３．　住民意見の反映方法について……3
（１）広報活動の状況……3
（２）委員会での広報に関する分析……3
（３）現状での改善点……4
４．広報・公表に関する市民の認知度調査……5
（１）目的……5
（２）アンケート諸元……5
（３）アンケート結果……5
（４）アンケート結果からの対応策……7
５．広報・公表のあり方について……11
（１）市民との情報共有の現状分析……11
（２）広報・公表活動支援策について……14

１．本日の委員会の主旨について

現在、揖保川流域委員会では地域の声を反映した河川整備計画を議論しているところであるが、過去の委員会において流域市民に対しての委員会の認識度や、揖保川河川整備計画に対する関心度が低いことが懸念されていた。

前回の第 19 回委員会では、地域への情報発信のためのコーディネータ的な仕組みの必要性についても意見が出されていた。

さらに委員からは、委員会での議論、方向性が住民意見を反映できているのかという疑問や不安の声も出されている。

これらに対して、市民の揖保川に対する関心度や、市民への情報伝達の効果や認知度について今回アンケートを通じて状況を把握することが出来た。

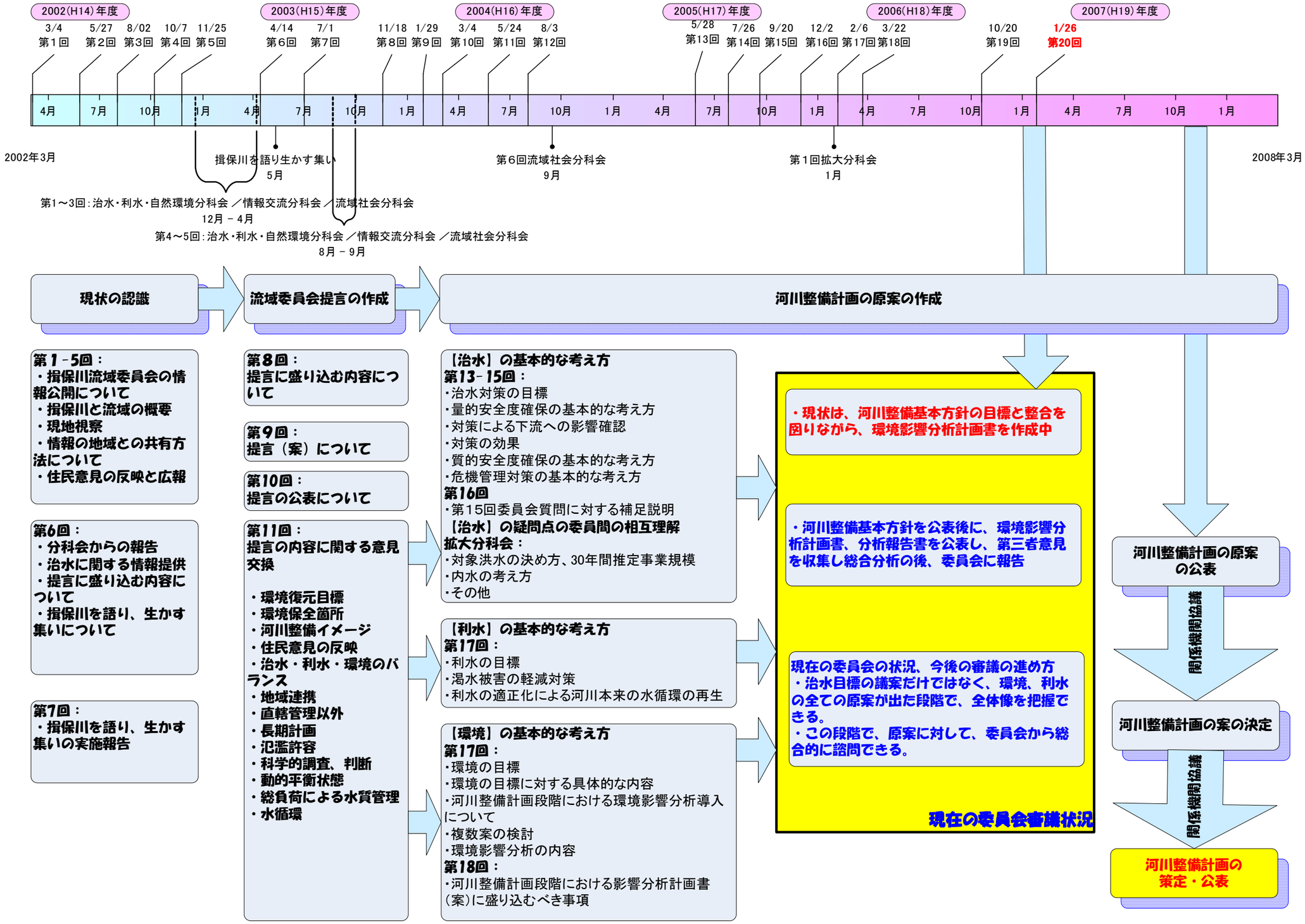
本日の委員会は、これらの結果をふまえて今後の情報発信の方法や、意見の取り入れ方について議論の必要性も含めて審議をお願いしたいと考えている。

２．これまでの委員会の流れと、今後の予定について

現在では、揖保川河川整備基本方針について社会資本整備審議会での審議が始まり、今後は整備計画に対する環境影響分析を行い、環境も含めた「河川整備基本計画の基本的な考え方」が一通り示されたのち委員会での議論、住民意見聴取の段階へと進んでいく予定である。

次ページにこれまで委員会で議論されてきた論点と、今後の予定について整理した。

これまでの委員会の体系的整理



３．　住民意見の反映方法について

揖保川流域委員会の最大の課題である住民への認知度向上と意見の集約について、これまで委員会でも取り組みがなされているが、十分な評価がされていなかった。

このため、広報と委員会の情報発信について市民の認識がどのようであるか調査し、その結果を用いて今後の対応策を検討するものである。

（１）広報活動の状況

現在、流域委員会では以下の情報公開形式を取っている。

・記者発表
・ホームページの整備と情報公開
・流域自治体へのポスター掲示
・チラシの配布（委員会開催案内）
・ニュースレターの配布（委員会の報告）
・委員会への一般傍聴

（２）委員会での広報に関する分析

上記で述べた広報活動について過去に委員会でも評価・意見が出されている。

過去の委員会での意見を抜粋すると以下の通りである。

・HP のアクセスが極端に少ない（2004 年　５人前後/日　　2007 年１月は 10 数人/日）
・委員会の知名度がひくい
・ニュースレターの内容が抽象的で興味をひかない
・一般人が興味を引きそうな年中行事、文化などを提供していく
・流域委員会でのイベントに参画してもらう（フォーラムやシンポジウムの開催）
・住民意見の反映と広報については「情報発信・啓発分科会」が担う（第５回委員会）
・HP はネット世代の若者に限定される
・住民意見は原案作成の前後２回行う（第１回情報交流分科会）
・公聴会を上流・中流・下流で行う。
・一般の意見は基本的に公表していく
・流域の学校の先生など河川環境に興味がある人を取り込んでいく

⇩

以上を要約すると、以下の通りである。

①ニュースレターや、ホームページなどの情報が市民に周知・理解されているだろうか
②現在の情報発信の仕組みでよいだろうか。
③整備計画の内容や委員会を知ってもらう必要があるのではないだろうか。
④市民の「物言わぬ多数派」（サイレントマジョリティ）の声を取り込む方法は何か無いだろうか。

（３）現状での改善点

先の項目で述べた広報の改善策のうち、庶務レベルで実施可能なことについて取り組んだ報告を以下に示す。

①ニュースレターの改良

これまでのニュースレターは文字数が多く、読みやすさを求めるためにマンガなどを利用し、市民の理解しやすさを求めている。これについては評価されているが、委員会の報告などについては、議事録的であり、読みにくさがあった。

このため、今回（平成１８年１２月発行）からは、A3 版の両面というシンプルな構成にし、伝えたいことのみを掲載して、内容の理解を求めることとした。

<u>→現時点での評価は未だ出来ない。</u>

②広報用のノボリ設置

委員会を認知してもらうためにノボリを設置した。

設置場所は許可の関係から、

・国土交通省龍野出張所

・国土交通省余部出張所

・今回の委員会がある「たつの市青少年館」

にノボリを１２月上旬から設置して、委員会の認知度向上を目指している。

<u>→現時点での評価は未だ出来ない。</u>

③市民アンケートの実施

これまでの広報活動については、客観的に評価する材料がなかったため、市民の認識を市民アンケート等を通じて実施した。

<u>結果は次項目に示す。</u>

④委員長から広報活動に関する助言（今回は委員長が欠席のため、紙面にて紹介します）

・ニュースレターの位置づけは、委員会内容、議論を正確に伝えること。それを満足していれば、改善は積極的に実行していく。

・市民に興味を持ってもらうアイデアとして、委員紹介、揖保川の生き物紹介、歴史紹介、地名の由来等を提案し、承諾を得た。地域委員を紹介することで、地元住民もその委員に意見を発言しやすくなる。生き物紹介は、生物に詳しい委員等にお願いするのもよい。歴史紹介は、全委員を通して、姫路市の史談会等も協力を得ることができればいい。庶務にお任せする。

・紙面レイアウトは、イラスト、図、写真を主体に、文字は極力少なく。文書を区切った方が見やすく、読んでもらいやすくなる。

・広報にも力を入れること。のぼりや横断幕による PR も効果が興味あるので実施してみたい。

４．広報・公表に関する市民の認知度調査

（１）目的

これまでの委員会の広報・公表の内容がどの程度市民へ認知されているかをこれまで定量的に調査を行ったことがないため、現状の活動について評価を行いにくい状況にあった。

このため、市民に向けてアンケートを実施し、今後の検討の基礎資料としてまとめた。

（２）アンケート諸元

①調査方法：面接法、定置法、郵送法が考えられるが、正確性を期して面接式にて実施した。
②調査規模：全体で 200 票程度を想定した。実施結果を以下に示す。
③調査時期：平成 18 年 12 月 11 日から 12 月 23 日

表 4.1 アンケートの実施状況

流域内の配布自治体	新聞等による配布数	比例配分計算値	アンケート計画数	実施数
姫路市	14, 150	47	50	61
たつの市	26, 455	87	90	103
太子町	7, 300	24	25	29
宍粟市	12, 900	42	45	46
計	60, 805	200	210	239

④実施場所等
実施場所については、多くの人が集まるところや多様な年齢層が集まる場所を選定して実施した。

表 4.2 アンケートの実施場所

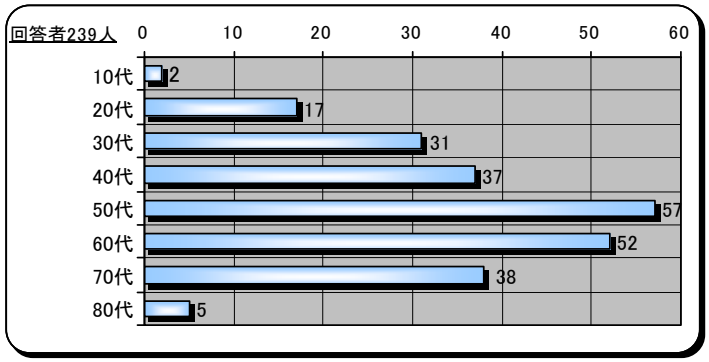
アンケート調査場所			実施日時	調査数（人）
龍野市役所	たつの市	市役所玄関前・駐車場	12 月 11 日	38
ダイエー龍野店、赤とんぼショッピングセンター	たつの市	玄関前	12 月 11 日	26
			12 月 12 日	39
生谷温泉　伊沢の湯	宍粟市	玄関前	12 月 12 日	2
宍粟市波賀市民局	宍粟市	玄関前・駐車場	12 月 12 日	10
道の駅南波賀	宍粟市	駐車場	12 月 12 日	8
太子町役場	太子町	玄関前・駐車場	12 月 15 日	21
太子町立図書館	太子町	玄関前	12 月 15 日	8
山陽電車網干駅	姫路市	駅前ロータリー周辺	12 月 15 日	57
姫路市安富事務所	姫路市	玄関前・駐車場	12 月 20 日	4
宍粟市山崎市民局	宍粟市	玄関前・駐車場	12 月 20 日	19
宍粟市一宮市民局	宍粟市	玄関前・駐車場	12 月 20 日	7
合計				239

（３）アンケート結果

アンケート結果については、別冊にて詳細にまとめた。
以降に結果の抜粋を示す。

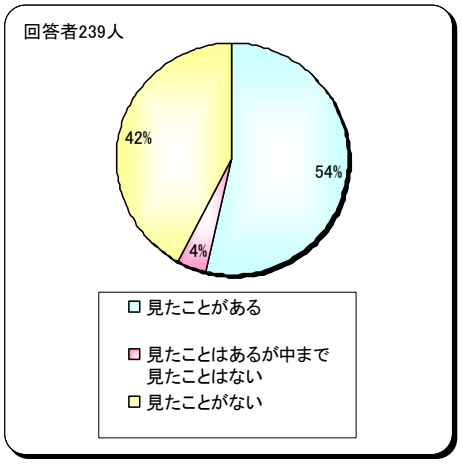
①調査対象者

調査対象者は、40 から 70 代が多くを占める結果となった。なお、若年層の意見を聞くために、作為的に若年層への調査を試ている。



②ニュースレターの認知度について

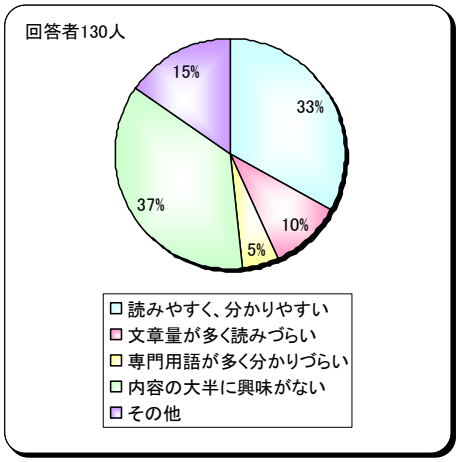
ニュースレターの認知度についてであるが、半数以上が見たことがあると答えている



③ニュースレターの評価について

内容について読みやすいという評価がある一方で、内容の大半に興味が無いという評価もある。

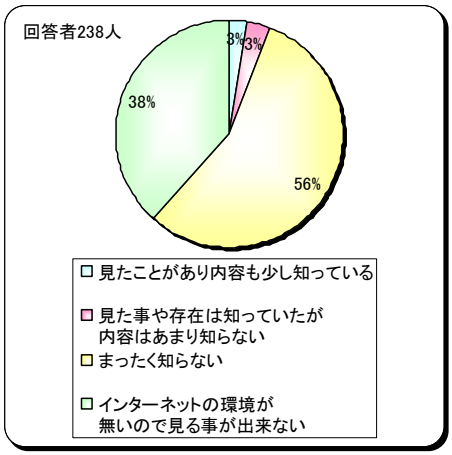
文章量が多いという評価も１割あった。



④ホームページの認知度について

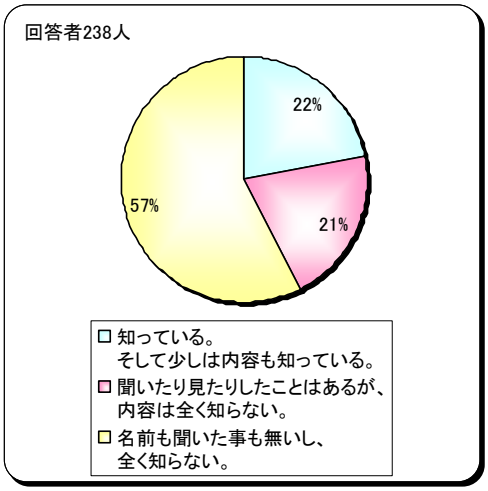
ホームページの認識については、見たことがあり、内容も知っている人がわずか３％とほとんど知られていない状況にある。

また、ネット環境がない人も４割近くいることがわかった。



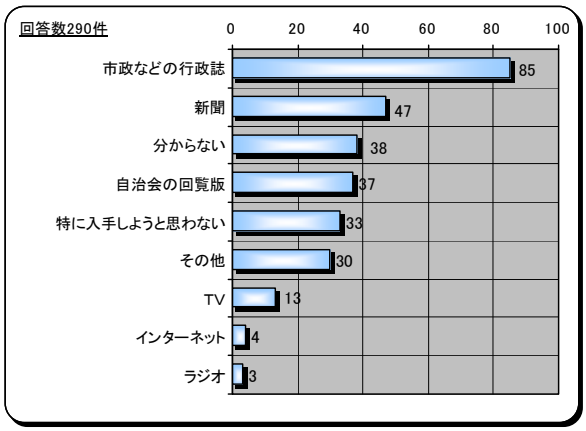
⑤委員会の認知度について

委員会の認知度は、内容まで知らなくとも、知っている人が、４割近くいることがわかった。



⑥揖保川の情報源

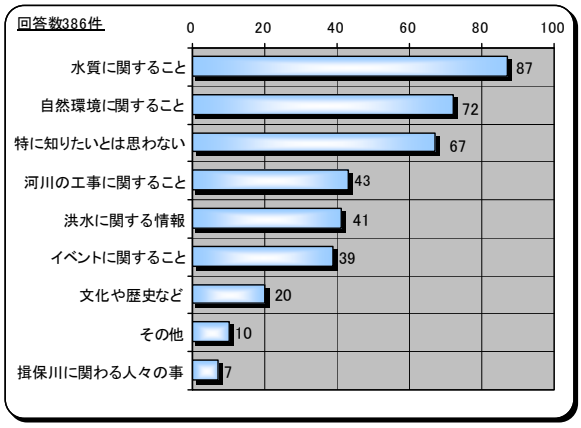
揖保川について情報を得る媒体は、「行政誌」「新聞」と続いている。



⑦揖保川に関して興味があること

関心が高い項目については、水質が最も多く、ついで自然環境となっている。

しかし、次いで多いのが特に知りたいことがないという答えで、関心が低いことが伺える



（４）アンケート結果からの対応策

これまでのアンケート結果を総括すると、以下のような対応が必要であると考えている。

・ニュースレターの認知度は半数程度なので、比較的認知度が高いと判断できる。ただし、内容については、市民の関心が高い「水質」「自然環境」の話題を提供していくことが必要であると考える。

・ホームページについては､認知度がほとんど無くこれからの情報発信に限界があることがわかる。さらに、もともとネット環境を有していない市民が多いと推測されることから、情報の周知は紙媒体に依存したほうが効果的であると判断できた。

・委員会については、認知度がある程度高いと評価できるが、その審議内容について知られていないため、委員会の審議内容の情報発信をさらに充実させる必要がある。

アンケートにご協力ください。

「揖保川流域委員会」は揖保川の河川整備に関する地域のみなさまのご意見をとりまとめ、国土交通省に提言しています。揖保川流域委員会について、より多くの方に知っていただくためにニュースレター「いぼがわせせらぎだより」を新聞の折り込みや自治会を通してみなさまに配布しております。今後、さらにニュースレターを広報ツールとして活用していくために、みなさまのご意見をお聞かせ下さい。

平成 18 年 11 月　揖保川流域委員会　庶務

当てはまる番号に〇をつけてください。

Q1. 揖保川ニュースレターを見たことがありますか？（右の図が最新号です）

①見たことがある　②見たことはあるが中まで見たことはない
③見たことがない

Q2. ニュースレターを見たことがある人にお尋ねします。内容の感想を聞かせて下さい。

①読みやすく、分かりやすい　②文章量が多く読みづらい
③専門用語が多く分かりづらい　④内容の大半に興味がない
⑤その他（　　）

Q3. 揖保川のホームページを見たことがありますか？（URL　http://www.iboriver.jp/index.html）

①見たことがあり内容も少し知っている　②見た事や存在は知っていたが内容はあまり知らない
③まったく知らない　④インターネットの環境が無いので見る事が出来ない

ホームページトップ画面

Q4. 揖保川の将来計画を考えている揖保川流域委員会というのがあります。ご存知でしたか？
（委員会では治水のことや自然環境の 30 年後を見すえた計画を考えています。）

①知っている。そして少しは内容も知っている。
②聞いたり見たりしたことはあるが、内容は全く知らない。
③名前も聞いた事も無いし、全く知らない。

Q5. この委員会は一般の参加も可能ですが、参加したいと思いますか？

①参加したい　（理由：　　）
②参加したくない（理由：　　）

Q6. 揖保川に関する情報は何から入手しますか？

①新聞　②ＴＶ　③ラジオ　④市政などの行政誌　⑤インターネットを通じて
⑥自治会の回覧版　⑦分からない　⑧特に入手しようと思わない
⑨その他（　　）

Q7. 揖保川の何について知りたいですか？（2 つ〇をつけて下さい。）

①洪水に関する情報　②工事に関すること　③自然環境に関すること
④イベントに関すること　⑤景色や歴史など　⑥揖保川に関わる人々の事
⑦特に知りたいとは思わない

Q8. 最後です。揖保川の情報は今後も欲しいですか？

①はい　②いいえ　③どちらでもない

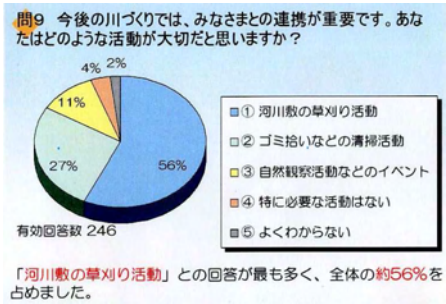
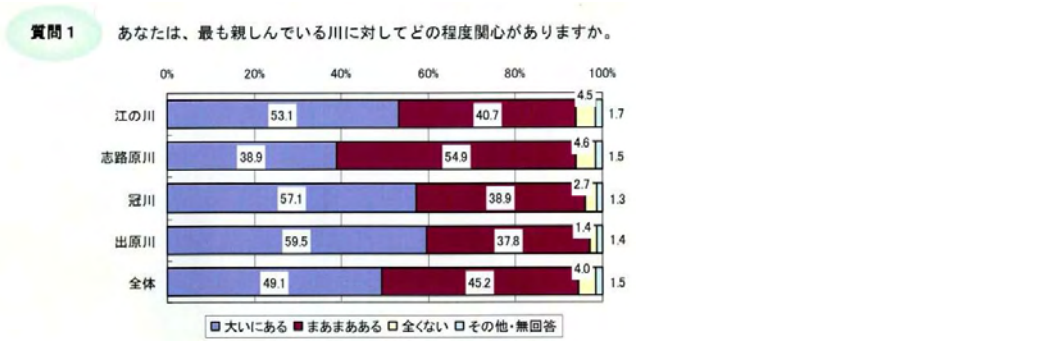
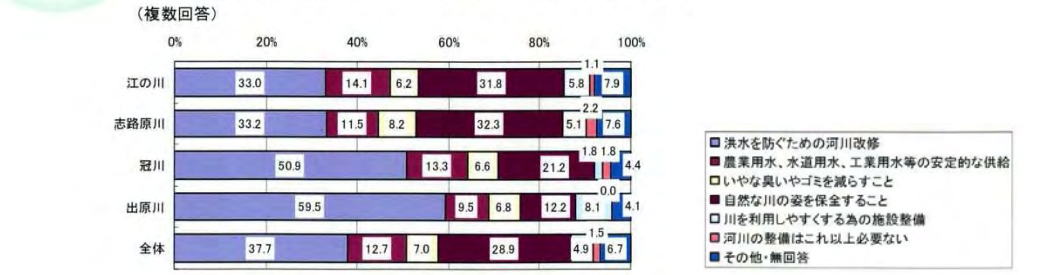
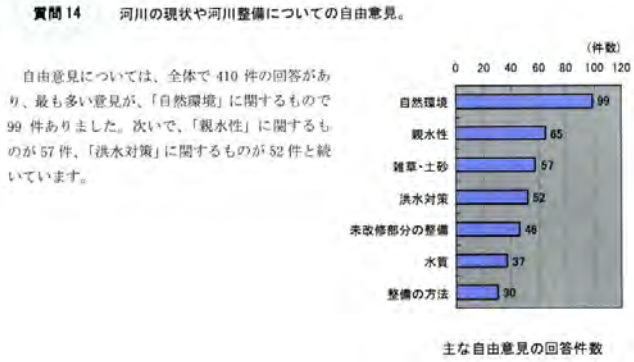
最後に、あなたのことを少しだけ教えて下さい。

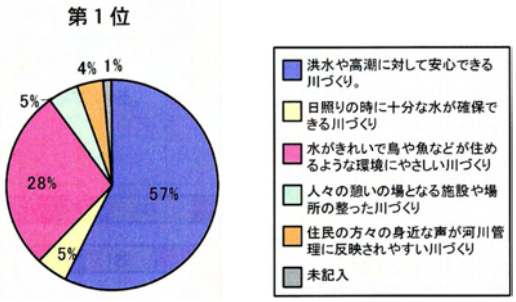
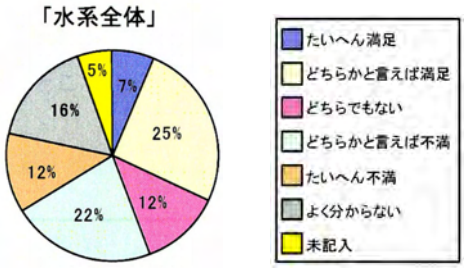
お住まい　　市　　町・地区　　年齢　　才　　性別　男　・　女

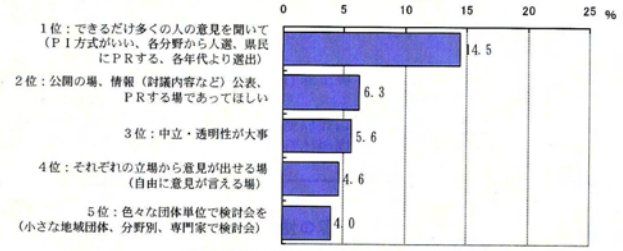
お問い合わせ窓口はこちら
揖保川流域委員会　庶務

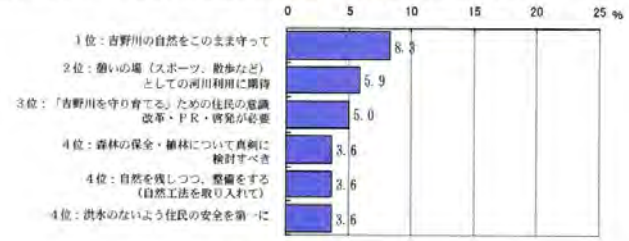
私たちは河川整備に関するみなさまのご意見をとりまとめ、国土交通省に提言します。
委託会社：株式会社　建設技術研究所　中国支社　河川室
担　　当：竹内、中野、和泉、西村
住　　所：〒732-0052 広島市東区光町 1-13-20 ディア光町
電話番号：082-261-3805　　FAX 番号：082-261-3740
e メール：ibogawa-office@ctie.co.jp

【他河川におけるアンケートの事例紹介】

<table>
<tr><td rowspan="4">事例
1</td><td rowspan="4">徳島県
福井川</td><td>（質問）福井川の川づくりについて、あなたは下記のどの項目を優先的に行えばよいと思いますか？</td></tr>
<tr><td>
</td></tr>
<tr><td>（質問）今後の川づくりでは、みなさまとの連携が重要です。あなたはどのような活動が大切だと思いますか？</td></tr>
<tr><td> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事例
2</td><td rowspan="3">広島県
江の川</td><td>（質問）あなたは、もっとも親しんでいる川に対してどの程度関心がありますか？</td></tr>
<tr><td> 
</td></tr>
<tr><td>（質問）今後、河川整備を行う上で、最も考えなければならないのと思うことは何ですか？
 
</td></tr>
<tr><td>（質問）河川の現状や河川整備についての自由意見
 
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">事例
3</td><td rowspan="4">広島県
岡ノ下川
水系</td><td>（質問）河川整備の優先順位は？</td></tr>
<tr><td> 
</td></tr>
<tr><td>（質問）河川整備計画への満足度いついて</td></tr>
<tr><td> 

河川整備計画への満足度については、岡ノ下川水系全体では、「満足」と「不満」の回答が２分され、次いで「どちらでもない」「よく分からない」の回答もほぼ同程度となっている。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">事例
4</td><td rowspan="4">徳島県
吉野川</td><td>（質問）「みんなで川づくりを話し合う場（検討の場）について、あなたはどのような場であって欲しいと思いますか？」</td></tr>
<tr><td>１）全ての小グループを多い順に第５位まで並べると下記のとおりです。
 

総情報数3,301件を100とした。</td></tr>
<tr><td>（質問）みなさまの自由な意見をお聞かせ下さい。</td></tr>
<tr><td>全ての小グループを多い順に第５位まで並べると下記のとおりです。
 

総情報数953件を100とした。</td></tr>
</table>

５．広報・公表のあり方について

（１）市民との情報共有の現状分析

アンケートの結果を受けて、多くの市民が揖保川を問題視していないことが判明した。

問題視していない理由としては、古くからの水質の問題が解決したことや、近年水害に見舞われていないことなど、「大きな問題を抱えていない良い川」としての認識があるからとも考えられる。

しかしながら、河川整備計画の策定には流域の意見を反映することが必要であり、現在の状況で策定を行うことについて、委員会の考えをここで確認しておく必要があると考える。以下に庶務で必要と思われる今後の活動について列記した。これらの必要性や方法について審議して頂きたい。

①揖保川に対する関心度の向上

昔に比べ水質が良くなり、ここ数年間洪水のない揖保川に対しては市民の関心が特段高くないのは理解できる。

しかしながら、有事に備えた治水の整備内容（ハード対策）の広報や、減災の仕組みなどのソフト対策については平穏な現時点であっても関心を持ってもらう必要があると考える。

②市民等のコミュニケーションの不足改善

これまでの市民に関心を持ってもらい意見を取り入れるために、委員会等の公開などを行っていたが、積極的な招き入れはしていない。

今後、揖保川に関心を高めてもらうためには、委員会側から市民に対して今以上にアプローチする必要があると考える。

③自治体、自治会の参画を促す

自治体は、河川整備計画の原案公表段階で意見を聞くために参画するが、早期の段階から参画することで自治体の地域計画などの意向を反映して行くことが必要である。

また、自治体が参加することによりより市民に近い立場の、自治会を巻き込んだ議論や広報活動が可能になると考える。

⇩

【改善策の提案】

以上をうけて、積極的に市民に情報を発信するために、以下の方針が必要であり、その具体的な方法について次ページの表に整理した。

なお、各方法は単独で成り立つものではなく、各手法の組み合わせにより相乗効果を発揮するものと考える。

■情報発信の基本的な方針

・情報公開にとどまらない積極的な情報提供の実施
・多様なコミュニケーション方法により、市民のニーズ・意見を収集し、市民に開かれた委員会の進め方の実施
・市民のニーズに合った内容の情報の発信

表－5.1　　広報・公表活動の方法とその内容①

手法	(1) パンフレット、ニュースレター【実施中】	(2)ホームページ【実施中】	(3)SNS ネットによる地域コミュニティ	(4)インフォメーションコーナー【たつの市において実施中】	(5)オープンハウス	(6)説明会	(7)見学会【実施経験有り】	(8)懇談会【現在の委員会】	(9)グループヒアリング	(10)タウンミーティング（対話集会）【語り集う会】	(11)ワークショップ
①概要	提供情報を、文章や写真で分かり易く印刷物として製作し、市民等に広く配布	インターネット上にホームページを開設し、これを活用して関連する情報を提供。	コミュニティ型のWebサイト。 趣味や嗜好、居住地域といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供する、会員制のサービス。	情報交換のための施設（立寄りセンター）を常設設置して、市民等の意見や提案を直接把握する。 行政庁舎の一部を借りて設置	インフォメーションコーナーより充実した内容を展示。 パネルの展示やパンフレット等資料の配布（場合により、図面、写真、模型、ビデオを用いた解説）により、情報を提供する場。	調査等の情報を河川管理者が説明し、市民等からこれに対する質問や意見を受ける公式の場として開催。	市民等が、検討の対象となる地域や施設を直接訪問し、現状や関連する調査結果について説明を聞くための催し。	関連事業者や市民、各種の団体、有識者など特定のカテゴリーの関係者と意見交換を行い、情報の共有等を図る	市民等の中から小グループ（１０人前後）を希望者から構成し、市民等のニーズ、期待、関心等に関するインタビュー調査を実施。	行政と市民による意見交換を目的として開催される対話集会。 河川管理者（または委員会）から事業内容を説明する。	ファシリテーターを決めて（委員？庶務？）WSを実施。説明者は河川管理者か？
②目的	実施状況や調査等のレポートなど関連する情報を広く市民等に伝える。	最新情報を迅速にかつ広範囲(全世界)に提供。	時間に縛られず、都合の良い的にネットを通じてコミュニケーションを図ることが出来る。	関連する調査等の結果をわかりやすく伝える。 市民等からの信頼度を高めること。	インフォメーションコーナーに準じる。 常駐者を配置し、会議形式の行事に抵抗感を有する市民等に機会を提供し幅広く情報提供する。	公式に市民等に対して、調査等の情報を提供する。	現地を見ることで市民等の理解を深める。	情報を提供し、参加者のカテゴリーごとに意見を集約すること。	総合的な調査や広報に対する市民等の意見を収集する。	事業主体の責任者から直接話が聞けるので、地域に対して関心を持ってもらうことが出来る。	参加者で共有認識を持って、計画などをとに作り上げていくことを目的とする。
③手法の特徴	委員会の実施状況や調査等のレポートなど関連する情報をコンパクトにまとめて提供。定期的に出すことを基本とするが、必要に応じ適宜作成することも可能。	広範で範囲の特定が困難な市民等に対する情報提供手法として有効な手法。 市民等は、情報を迅速に得ることができ、情報も多く入手可能。さらにビジュアル表現によりわかり易い情報を得ることができる。 返信メールアドレスを明示することで双方向コミュニケーションが実現。	ネット環境を通じて、議論を深めていく。 会員制により運営することにより、共通の話題について議論しやすく、掲示板のように中傷的なこと書かれないように、利用者を制限することが出来る。	パネル等による常設展示により情報を発信するが、定期的に情報を更新する必要がある。	展示物の疑問点などは、スタッフがフェイス・ツー・フェイスのコミュニケーションを行い解説する。	正確な情報を伝えることが可能。 説明会やセミナーのみで市民等と十分なコミュニケーションするためには、他の対話手法と組み合わせて用いることが必要	地域や施設の実情を直接訪問することで、市民等が理解を深めることができる。	十分に情報提供し、議論することにより、相互の理解を深めることができる。 参加者のカテゴリーに応じて開催することで、参加者が発言しやすい環境を創出する。	市民等は、ニーズ、期待、関心等をアンケートよりも詳細に発言することが可能。	重要な場面において、事業責任者から住民に対して説明を行う。 事業や政策について行政側から一方的に説明されるのではなく、市民の声を聞き市政に反映させ、また、行政の施策を直接市民に伝え、意見交換をすることが可能になる。	意見をカードなどに記入して分類してまとめるため、多くの人の前で発言しにくい人の意見も参考にすることができる。
④実施のタイミング	提供する情報の密度等勘案し、適宜発行。	広報活動の実施と同時に設置されることが望ましい。 こまめに情報を更新し、タイムリーな情報提供を行うことが重要。	計画の初期の段階から終了まで	提供すべき情報が蓄積された段階。	随時。インフォメーションコーナーに準じる。	取りまとめられた情報等を提供する際に実施。	随時。	検討の初期の段階から。	各ステップにおいて随時	計画の初期段階や、重要な場面	計画の初期の段階から

（手法の色分けは類似していると思われるものを分類した）黄色は紙やネットなどの媒体を通じて発信的な情報開示の方法。緑色は、展示による情報発信方法。水色は事業者側からの説明。桃色は合意形成的な会議形式のもの。

表－5.2　　広報・公表活動の方法とその内容②

手法	(1)パンフレット（ＰＦ）、ニュースレター（ＮＬ）【実施中】	(2)ホームページ（ＨＰ）【実施中】	(3)SNS ネットによる地域コミュニティ	(4)インフォメーションコーナー【たつの市において実施中】	(5)オープンハウス	(6)説明会	(7)見学会【実施経験有り】	(8)懇談会【現在の委員会】	(9)グループヒアリング	(10)タウンミーティング（対話集会）	(11)ワークショップ
⑤参加者対象者	全ての市民等	市民等に加え、関連する全ての人が対象。	ネット環境を有する市民	施設へ直接来訪できる市民等。	施設へ直接来訪できる市民等。	関心、参加意識が高い市民等。	関心、参加意識が高い市民等。	関心を持つ市民、各種の団体（市民団体等含む）、専門知識を有する有識者など。	事業に関心のある市民（可能であれば関心の内容別やスキル別が好ましい）	事業に関心のある市民 事業責任者	事業に関心のある市民 事業者、第３者的な立場の者
⑥委員の役割	ＰＦやＮＬへの記事の投稿を行ったり、原稿のチェックを行う	ＨＰへの記事の投稿を行ったり、原稿のチェックを行う	会員となり、ネット中での発言を行う。	展示物の監修	展示物の監修を行う。	説明者の話しをわかりやすく解説し、住民側のアドバイザーになる	説明者の話しをわかりやすく解説し、住民側のアドバイザーになる	話題提供者や専門分野の審議委員として発言	議論の導き役や論点をわかりやすく解説し意見を出しやすくする役	話題を提供したり、住民にわかりやすく解説する役	ファシリテーターを行ったり、住民側の技術アドバイスを行う
⑦関わり方	補助的に関わる	補助的に関わる	活性化を図るために主体的な参加が必要	補助的に関わる	イベント時には説明者として参加する	主体的な参加が必要	主体的な参加が必要	主体的な参加により会議の運営を行う 参加者を集める。	主体的な参加が必要 参加者を集める。	主体的な参加が必要	参加者を集める。 主体的な参加が必要
⑧メリット	・市民等への配布、公共施設等での陳列等により、広範囲の市民等が定期的かつ迅速に情報を得ることが可能。 ・印刷物として手元に残すことも可能。	・費用を大きくかけることが無く、机上での運営が可能である。 ・流域に限定することなく、広範囲の人に情報を早く安く周知することが出来る。	・費用をかけずに運営することも可能である。（初期投資はかかる） ・議論が都合の良いときに出来る。	・市民等は、都合の良い時間に立ち寄り、必要な情報だけを得ることが可能。	・市民等は担当の行政スタッフに対して質問し、コメントカードやアンケートによって意見を述べることが可能。 ・市民等は、都合の良い時間に立ち寄り、必要な情報だけを得ることが可能。 ・フリップボード等に意見を残すことで、他人の意見を知ることも可能。	・とくに反対等が無ければ短時間で事が決まる可能性がある。	・事業の内容を具体的に説明することが出来る。	市民の関心の高い話題について実施、企画をすることが可能。 一般参加者も意見を述べることが出来る。	・メンバーが互いに影響しあうことから単独のインタビューよりも発言しやすい。 ・説明会など大勢の前で発言することに抵抗感を有する市民等も参加し易い。	・河川行政に対する意見がその場で得られることが出来る。 ・発表意見を多くの人で共有できる。	・サイレントマジョリティの意見を吸い上げることが出来る。 ・WS を通じて計画の主な内容を決めていくことが出来る。 ・他案に比べて結果を具体的にまとめやすい。
⑨デメリット	・情報が一方通行になる。 ・情報の理解度や浸透度が測りにくい。 ・情報伝達に数週間から１ヶ月ほどの時間を要する。 ・ＨＰに比べ印刷や配布コストがかかる。	・パソコン等のインターネット端末が必要。 ・現状ではＨＰの市民認知度が３％程度と低いため認知度向上のために多方面にリンクする必要がある。	・パソコン等のインターネット端末が必要。 ・ある程度パソコンやインターネットに慣れが必要	場所の確保が必要。	場所の確保が必要。人件費など運用コストがかかる。	・管理者からの情報の一方通行になる可能性有り。 ・サイレントマジョリティの意見が吸い上げられない。	・準備に時間を要する。 ・当事者以外では関心がない現場には行かない。	・委員会形式であると、一般参加者の参加が多くは見込みにくい（アンケートでは委員会だと敷居が高く参加しにくいと意見があった）	・グループ毎に運営するために、時間と労力がかかる。 ・参加者を集める必要がある。	・発言者の意見のみが表に出てしまいがち。 ・反対の声は大きいが賛成や建設的な意見は小さく聞こえがち ・サイレントマジョリティの意見が吸い上げられない。 ・ある程度の人数の参加がないと成り立たない。 ・広報活動が重要になる。	・１地区で数回開催して内容を深めなければならないので、時間を要する。 ・会議回数が多く時間が長くならないように期限を決めて進めた方がよい。 ・結果を図化したりする成果作成に時間を要する。 ・参加者を集める必要がある。

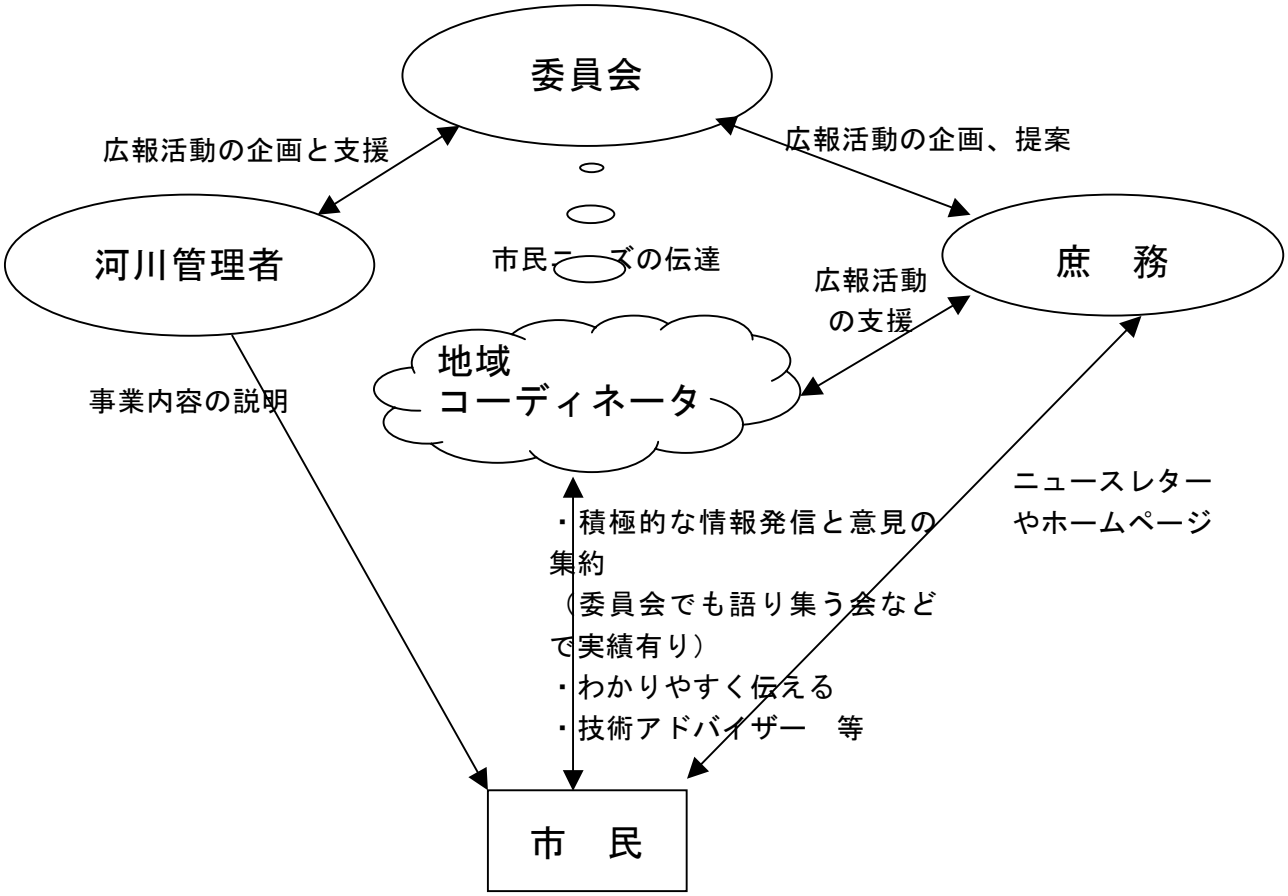
（手法の色分けは類似していると思われるものを分類した）黄色は紙やネットなどの媒体を通じて発信的な情報開示の方法。緑色は、展示による情報発信方法。水色は事業者側からの説明。桃色は合意形成的な会議形式のもの。

（２）広報・公表活動支援策について

今後、広報・公表を実施するにあたり、現状の組織に加えコーディネータ的な位置づけも検討する必要があると、前回の委員会で触れられている。現状の組織を大別すれば「委員会」「河川管理者」「庶務」に区分される。

現在、地元代表の委員メンバーには、地域や地元行政の動向などについて意見を集約してもらいつつ、委員会の情報を発信してもらっているところであるが、今後より広報・公表に力を注ぐとするならば、現状の組織に何らかの機能を付加する必要も考えられる。

この付加機能としては、前ページの委員の役割の項目で述べたように
・住民に河川行政や委員会の情報をわかりやすく伝え、意見を集約する。
・会議時にファシリテーターのような立場やオブザーバーの立場で参加したり、技術アドバイザーになる。
・イベント時に市民に声をかけて参加者を集める。
等のことが考えられる。
このようなことは、過去には「揖保川を語り集う会」など委員会で実践してきたことであるが、今後広報や公表に力を入れるとすれば、このような活動もより充実させていかなければならない。なお、コーディネータの人材や設置期間、具体的役割などについても審議して頂きたい。以下に、各々の役割を概念図に示す。



図－　5.1　今後の広報・公表活動の役割分担（素案）